

令和2年3月25日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それでは、ただ今から今年度最後の市長定例記者会見、開催いたします。先ほどご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。本日の話題は1件です。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】

毎日、コロナ、コロナで慌ただしい年度末になってしまいましたけれども、最後の定例記者会見になりました。本当に1年間にわたり、積極的に報道をしていただきありがとうございました。

最後の話題は「城北公園がわくわくドキドキする公園に生まれ変わります！」というテーマを付けました。お手元の資料、A3横紙が添付されていると思いますので、少しお開きをいただきたいと思ひます。これですね。2年前に都市公園法が改正をされ、規制緩和の一環として、この Park-PFI 制度ができました。それにいち早く対応をして、静岡県内では初めてこの制度の下で公園のリニューアルをしていくという取り組みであります。都市局がこの制度を研究して、そして城北公園をいの一にやっぺいこうというふうに決定をしたものであります。

この資料にありますとおり、静岡市は3次総5大構想の中で「歴史文化の拠点づくり」ということを掲げております。駿府城公園を中心として、どうやっぺこの臨濟寺、今川義元ゆかりの臨濟寺までの回遊性を高めていくかと、この仕組みづくりの一つとして、この Park-PFI 制度を使っぺいきたいと思っぺしております。これは予算案の中にも入っぺしておりますけれども、いわゆる麻機街道ですね。浅間神社から臨濟寺へ至る道を、仮称・今川歴史街道と銘打っぺ、誘導の看板の設置などの取り組みを進めていきます。その中間地点にこの城北公園があるわけでありますので、今川歴史街道の到達点である臨濟寺のほど近くに位置するこの有利性を生かして、今回のリニューアル、そこで少し休んでもらうとか、あるいは飲食をしてもらおうというようなかたちの公園になろうかと思ひます。

従来から城北公園は図書館や日本庭園、噴水や花時計を備える魅力ある公園として多くの市民に親しまれています。ただし、私、県議会議員のころから、城北公園、駐車場が少ない、狭いというような市民からの不満、要望というものを数多く聞いてきました。近隣公園の位置付けなので、安東地区の方々に使っぺしてほしいという、昔、静岡大学のあつた場所が公園化したものなわけですけれども、しかし、やはり素晴らしい公園なので、もっと遠方よりこの城北公園に来たいというニーズがあつたということの問題意識としてあります。そこで今回、先ほどの歴史文化拠点の一環としての整備とともに公園自体の利便性を高めると、駐車場不足を解消するという一石二鳥も狙っぺ今回のリニューアルに取り組みます。ご存じの通り、その資料に書いてある通り、Park-PFI 制度とは民間事業者のアイデアと資金により公園の魅力を高める施設の設置を推し進める制度です。売店などの収益を上げる施設の設置と、その収益で広場や園路などの公共的な部分の整備を一体的に行っぺただける民間事業者を公募によって選んでいく制度であります。そこで今回のリニューアルでは、いわゆる飲食施設と駐車場を一体的に整備をするという公募条件にしていきます。

風格のある大木に囲まれた落ち着いた城北公園に佇むおしゃれな施設は、隣接する中央図書館と相まって、公園に来る皆さんの利便性を高めていくレクリエーションの場になるでしょうし、図書館で本を借りて、そしてアウトドアでそれを読むというぜいたくな時間も過ごすことができるはずであります。また、お子さん連れの皆さんが多く集まることによって、新たな子育てコミュニティの形成なども期待をしております。中央図書館も同時期にリニューアル、改修を行います。館内照明のLED化などの環境改善を行うとともに、乳幼児用のトイレや授乳室を新設をし、また、中からも公園を見ながらゆっくり読書ができる席を増やしていくという改修、閲覧席ですよね。ここを増やしていくという改修を行っていきます。今度は、例えば晴れた日には、青空の下でコーヒーを飲みながら図書館の本を読むイベントを開催するなど、Park-PFI 事業者と連携した取り組みを打ち出していくことによって、公園の中に立地する図書館という付加価値を高めていき、より多くの皆さんに中央図書館を利用してもらいたいと思っています。このように、城北公園を、駿府城公園、浅間神社、臨濟寺などの歴史資源、地域資源と並ぶ、訪れたい、あるいは訪れやすい都市公園となるよう、再整備をしていくことによって来街者を増加をし、回遊性を高め、そして地域経済の活性化につなげていきたいと思っています。皆さん、海外の公園いろんなところに行ったことがあるでしょうけど、例えばニューヨークのブライアント・パークであるとか、あるいはロンドンのハイド・パーク。公園なんですけど、そこにさまざまな要素があるんですね。図書館があつたり、遊園地があつたり、ハンバーガー屋さんがあつたり、ビールスタンドがあつたり、そういういろんな方々を受け入れる公共空間となっているわけですね。そういう多様性を受け入れる世界水準の公園に城北公園をしていきたいという志の下、都市局を中心に整備をしていきます。最後に本事業のスケジュール感ですが、まず来月に事業者の公募を開始して、7月ごろには事業者を決定し、来年の4月にはリニューアルオープンを目指していきたいなというふうに思っております。これもいつも私が言うように、一つのビジネスモデルとしては事業性と公共性を両立していかなければいけないという難しいハードルがあるわけなんですけども、とにかくもうけは確保しながら、事業性は確保しながら、社会性や公共性も追求していきたいと、地域に貢献をしていきたいという民間事業者がこのミッションに挑戦をしていただけることをぜひ期待をしたい、ぜひ公募に手を挙げていただきたいということをお願いいたします。私からは以上です。

【司会】

それでは、ただ今の発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。それでは、早速ですが幹事社質問に移りたいと思いますので、幹事社さんよろしく願いいたします。

【毎日新聞】

毎日新聞です。今年度最後の定例会見ということで、今年も1年間ありがとうございました。

【市長】

こちらこそ。

【毎日新聞】

ちょっと幹事社質問を1点させていただきます。来年度から、情報発信力の強化を訴える市長の下、新たに民間から戦略広報監が登用されることになりました。非常勤職員さんとなるということですが、具体的にはどういった役割を担うことになるのでしょうか。お聞かせください。

【市長】

早く皆さんにも紹介したいなと思っております。この質問に対して、先日議会でも少し触れましたが、少し詳しく新しい広報監に就任する柴山さんに期待する二つのミッションをここでお話をしたいと思います。

まず一つ目は、伝えたつもりでも伝わっていなかったという私たちの今までの広報のあり方を転換をするために、伝わる広報に、今までの民間企業でのご経験、スキルをぜひ生かしていただきたいということであります。やはりコマーシャルを打っていったって、プロモーションをしたって、商品が売れなきゃいけないという、そこに結果が出るわけですよ。そこに民間企業の厳しさがあるんだろうと思います。

その点、静岡市の情報っていうのは、一生懸命やるんだけど、それによって売れるっていう部分がないわけですね。数字上がる、だから本当にそれが伝わったかどうかというのが確認できないといったことが今までの教訓でありました。ちゃんと伝えたつもりでも伝わってなければ仕方がないだろう、伝わる広報にするためにはどうしたらいいのかという、この戦略的な広報で今までのご経験をぜひ生かしていただきたい、市の職員に刺激を与えていただきたいというふうに思っています。これは二つ目のミッションにもなるわけでありますけども、市の職員が一人一人そういう心構えで自分の課がやっている事業を市民の皆さんに伝えていただきたいと。先日も、財政局が新しい取り組みの中で、令和2年度の予算案の説明、財政局が一から十まで説明するんじゃなくて、それぞれの課が説明をしたと、自分事として。それは財政局の新しい挑戦だったんですけども、かえってそれが通りいっぺんの非常に行政的な平板な説明で、かえって皆さんをいらいらさせてしまったというか、時間を拘束してしまったという反省点があります。もっとそういうときに端的にズバズバと説明できる能力というのが市の職員に求められているということは今回も痛感をしたわけです。

そこで、柴山さんには市の職員の情報発信にかかるレベルを向上してもらおうということも期待をしたいと思います。所属長や各課の広報担当職員、そして、若手職員への研修だけではなく、ともに仕事をする職員がそのノウハウを吸収して、その職員が周囲を巻き込んで仕事をすることによって、自然体の、一人の百歩じゃなくて百人の一步ですよ。で、我々こんな施策を展開しているんだということを市民に伝わっていけばなというふうに思っています。

明日、柴山さん、市役所訪れるということを伺っております。今、静岡市のことを積極的にグリップ、把握をしてくれているところでもあります。これまでも5大構想の関係局長からヒアリングをしたり、市内

の主だったところを視察していただいたり、来年度に向けての準備を着々と進めております。来月以降は静岡市内に住居を構えて、週5日広報課に出勤をいたします。新しい戦略広報監の下、市長公室の一環として、市長公室を挙げて新しいことに挑戦をしようと柴山さんを迎える職員も意気込んでおりますので、記者の皆さんにもぜひいろいろアドバイスなり、ご指導をよろしくお願いをいたします。私からは以上です。

【司会】

幹事社さん、よろしいですか。ありがとうございました。それでは、各社さんからご質問をお受けしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。NHKさん。

【NHK】

NHKです。よろしくお願いします。取り急ぎ、学校、新学期の対応とオリパラ延期の二つについてお尋ねします。きのう文部科学省から、学校再開に向けたガイドラインで、換気の徹底ですとか近距離での会話の際のマスク使用などを教職員内など確認することというようなガイドラインを示されましたけれども、こういったことが出たことを踏まえて、静岡市内の小中学校、新学期、まだ方針、示されていないと思いますが、どうされるかまずお聞かせください。

【市長】

まず新学期の開始については予定通り4月から開始をします。入学式も実施すべきだと考えております。3月15日に国から要請を受けた臨時休校は終了しましたので、卒業式もご存じの通り必要な配慮をしつつ実施をしました。その後、感染症の拡大状況も見られていないことから、判断を変える必要はないというふうに考えております。

15日に臨時休校を終えて、静岡市の独自の取り組みだったわけですが、16、17開校して、いきなり卒業式じゃなくて、16、17開校して、そして助走をつけて、18、19の卒業式を迎えたわけです。すごくそれがよかったなというふうに思っています。というのは準備ができたからですね。うれしい報告がいくつか来ているんですけども、例えば、こういうピンチのときじゃないですか。いつもの通り、例年通り卒業式ができればそういう危機感はなかったんだけど、こういうときだからこそ自然にいろんな発意が出てきて、いろんなアイデアが出てきて、例えば、16、17日に卒業式に在校生は出れませんというふうになっていたんで、それを残念に思っていた在校生からサプライズで16、17日に開校して集まったときに、じゃあ卒業式のときに録音をして、そして、みんなの声を集めて、そして、卒業式に在校生のメッセージとして伝えることにしようとか、そんな取り組みが行われて、当日在校生はいなかったんだけど、卒業生は突然そういう声が入って、それですごく感激をしてくれたというようなこともあったそうであります。録音で卒業生を送る言葉を用意していただいたという事例ですね。ですので、16、17から開けてよかったなというふうにも思いました。ですので、今後、教育委員会において政府の専門家会議の状況分析や提言、文部科学省の通知を踏まえて、入学式や新学期の学校運営において必要な配慮事項はもちろん整備をした上でありますけども、子ど

もたちが安心して学校に通える工夫を検討をしていきたいと思ひます。

【NHK】

ありがとうございます。確認ですが、4月7日ですか、予定通り市内の小学校、中学校、小中一貫校、全て始業式、卒業式(入学式?)行う方針であるかということと、7日の日程で行う予定であるかということと、卒業式は出席者の限定など各校でありましたが、入学式について考え方はいかがでしょうか。

【市長】

実務的なことは教育局の局次長から答えます。

【教育局次長】

お答えします。教育局次長の甲です。お尋ねの4月の学校再開というか新学期でありますけれども、私どもとしては予定通り小中学校に関しては4月7日に入学式と学校の始業をしていきたいというふうに考えております。その際に、入学式でありますとか始業式に関しましては、これまでも市の方針としても公表してきておるところではありますけれども、入学式については卒業式と同様にできるだけ体制は縮小したかたちで実施したいと思っておりますし、始業式に関しましても、感染症の拡大状況は変化はないところというところでは考えておりますけれども、われわれとしては子どもが大量に一堂に会するようなことがないように、例えば放送によって行うなどの対応をとりつつも、通常の学校運営を再開していくと、そういったいくつかの工夫を重ねながら対応を進めていきたいと思っております。以上です。

【NHK】

分かりました。これも確認ですが、市内で今後感染確認があった場合は、そのときは局地的な休校はありうるということでしょうか。

【教育局次長】

お答えいたします。具体的にその場面において保健衛生上の必要性や、また市民の皆さんのご不安という状況を踏まえて判断をしていくことになると思っておりますけれども、全くないということは今申し上げるのは無責任だと思っております、必要に応じて休校であるとか学級閉鎖ということはやっていく必要があるだろうと考えております。これは当然、今までも、そのほかの感染症、例えばインフルエンザなどの場合にも取っておることでもありますので、大きな混乱はないようなかたちで対応を進めていきたいと思っております。以上です。

【NHK】

ありがとうございました。続いてオリパラの延期についてなんですけれども、ご承知の通り1年程度

の延期ということですが、確かモーリシャスと台湾の事前合宿が5月と7月予定されていたと思います。スペインもやる予定は検討されていたと思いますが、この辺り静岡市の対応はいかがでしょうか。

【市長】

無念でしたね、準備をしてきただけに。担当職員も頑張ってくれていたし、その思いはあります。しかし、世界的な状況を見ると、これはIOCも政府も苦渋の決断だと思いますので、これは私たちとすると受け入れたいと思います。受け入れたあとで、むしろさっきの小学生のピンチはチャンスという発想ですよ。ピンチだったからこそ、これを付加価値を付けていくということがこれから大事なんでしょうと思います。むしろ1年間延びたことによってさらに助走期間が長くなったわけでありますので、ホストタウンであるスペインとか台湾との交流も、これからもっともっと緊密に丁寧に準備をしていける時間が出たというふうに前向きに捉えて、これから準備をより一層進めていきたい、関係を緊密にしていきたいというふうに思っております。

【NHK】

5月に台湾の陸上の事前合宿があつて、7月にモーリシャスが8競技ぐらいあつたと思いますが、その事前合宿の予定はどうなりますでしょうか。

【市長】

このところはスポーツ交流課長から答えます。

【スポーツ交流課長】

お答えします。スポーツ交流課長、望月です。よろしくお願いします。ご質問の、台湾、スペイン、モーリシャス、それぞれ、台湾は陸上、スペインはバドミントン、モーリシャスは8種目程度ということで、きのう延期が決まったばかりですので、早速今日、各協会、連盟に連絡を入れているところで、それぞれ延期するのか、また合宿に今年度来るのかというのは、それぞれのところと調整をしながら受け入れる予定で、とにかく選手の安全それから皆さんの不安を取り除くようなかたちで対応をしていく予定です。以上です。

【NHK】

現段階で5月や7月に既に予定されている事前合宿の延期も決まっていなくていいのでしょうか。

【スポーツ交流課長】

はい、現段階では決まっておりません。

【NHK】

分かりました。ありがとうございます。

【司会】

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。朝日新聞さん。

【朝日新聞】

朝日新聞です。事前合宿以外に五輪が延期になったことで市として対応しないといけないこととかは、懸念されていることとか課題とかありましたら教えてください。

【市長】

最後の質問ですね。はなむけにスポーツ交流課長、お願いします。

【スポーツ交流課長】

はい。聖火リレーも中止が決まったということ、そして、われわれ、ラグビーのワールドカップのファンゾーンのようなライブサイトを行う予定でしたけれども、こういったこともオリンピック・パラリンピックが延期するというに伴って、こちらも同じように見直しの必要が出てくるというふうに思っております。オリンピック・パラリンピックにかかる関連事項としては現段階ではそのようなところ です。以上です。

【司会】

中日新聞さん。

【中日新聞】

中日新聞です。今の点に関連しまして、オリンピックのほうも1年延期した場合にほかの施設との予定の兼ね合いということがいわれてますが、市の場合、来年の夏程度に延期された場合に、今予定している事前合宿の受け入れ施設の予定状況、兼ね合いと調整はどのようにされていくお考えでしょうか。

【市長】

これも実務的には課長から答えてもらいますけども、そうはいつだって実務的には大変です。今までパチッと決まって、この夏と思って準備をしてきましたので、これを全部やり直さなきゃいけないと、予約状況等々もありますので、それをリセットしてやり直すというのは大変実務には負担がかかることだろうと思います。その点では大変申し訳ないなというふうに思いますが、それを乗り越えていく価値を見いださなきゃいけないなというふうに思いますが、スポーツ交流課長、お願いします。

【スポーツ交流課長】

続きましてスポーツ交流課長です。今市長が答えた通りではありますけれども、施設については静岡市の施設を使う予定でしたので、各指定管理者、またスポーツ振興課の担当等と1年先を見越した中の調整、それから選手を受け入れるに当たっては、当然、宿泊施設、ホテル等を予約しておりましたので、そういった関係各所と今後調整をして、来年に向けて合宿を受け入れる準備をしていきたいというふうに思っております。

【司会】

よろしいですか。静岡朝日テレビさん。

【静岡朝日テレビ】

静岡朝日テレビです。コロナ関連で2点質問させてください。先週、政府の有識者会議で自粛要請の解除について話し合われて、感染状況別に対応を三つに分けるようにとの提言がありました。静岡市は現在、感染者が複数人確認されているんですけども、静岡市としては感染が収束しつつある地域なのか、それとも感染が確認されていない地域なのか、どこに値するのでしょうか。

【市長】

まず私たちは、これも話をしていることですが、とにかく国のイベント自粛要請を受けて、今月中に静岡市内でクラスターを発生させないと、ここを最優先の目標、目的としていろいろな取り組みをしております。その効果が現れて今日現在はクラスター発生していないという状況であります。この資料を配ってください。これは国から来たチラシでありますけども、三つの密を避けて外出しましょう。これ非常に分かりやすいチラシなので、これを使おうということになったわけではありますが、クラスターを発生させないために三つのリスクを同時に満たさないという考え方ですね。この三つが同時に条件としてそろってしまうとクラスター発生のリスクが高いということです。ですので、例えば学校なんかはどうしても子どもたちやっぱり触れ合いますから、多数が集まって密集したり、あるいは間近で会話が発生をするということもあるわけですね。だけど、そういう子どもたちの環境には、換気をよくするところをクリアにして、この三つの状況をそろえさせないというような取り組み、これは学校だけでなく、さまざまな公共の場所、民間の場所に対しても、こういう啓発をしながらクラスターの発生を抑えるということをこれまで通りやっていきたいと思っております。

【静岡朝日テレビ】

静岡市としての感染が収束しつつある地域なのかどうかという、そのどこの地域に値するかというのは現状どういうふうに把握されていますか。

【市長】

どんなふうに感じられていますか。

【静岡朝日テレビ】

計りかねたので伺っているんです。

【市長】

今月中はとにかくクラスターを増やさないということで、今のところそれぞれの現場で市民の皆さんも協力をしていただいて、よくやってきているというふうには思っています。残り5日間、6日間ですけれども、今月中とにかく注意深く一日一日を過ごしていきたいというふうに思っています。

【静岡朝日テレビ】

じゃあすいません、確認ですが、感染が確認されていない地域という市長はご判断されていると。感染が確認されていない地域というご判断ということで。

【市長】

そうですね。ただ油断はできませんので、一日一日の積み重ねだろうというふうに思っています。

【静岡朝日テレビ】

すいません、もう1点。これからの花見ですとか飲み会についてなんですけれども、東京都も自粛要請とかをしている中、昨日、川勝知事も用心に越したことはないといったような主旨でお話されていました。静岡市としては飲み会ですとか花見に対してはどのような方針なんでしょうか。

【市長】

まずは自粛期間しっかりやったあとで、その辺りのところを状況に応じてアナウンスしていきたいなというふうに思いますが、基本はこれに気を付けてほしいということです。これに気を付けつつ、やはりやるべき会合はしていただいて結構だというふうに考えております。結局、クラスターの発生を抑えるということはやっぱり縛るということですね。市民の安心を守るということです。それと、地域の経済、大打撃です。そこところはやはり流れを変えていかなきゃいけないと。昨日も飲食の関係の方とのトークセッションをしたわけでありまして、本当に悲鳴が聞こえてくるわけですね。そういった意味でのこともやっていかなきゃいけない。ただ、例えばテレビやメディアの報道に触れると、静岡市のことも世界のことも一緒に入ってくるじゃないですか。むしろイタリアがこうなっている、大変だっというようなことが人々の印象に強く残るんですね。ですが、例えば全国一律とかそういったことが、3月中まではいいけれども、4月以降はやっぱりそこから少し客観的に静岡市がどういう状態かということを市として判断をして、静岡市はこういうふうにしていきましょうということも必要だろうというふうに思っています。物の流れとともに人の流れが止まってしまったということが大変な悪影響を及ぼしているというところもありますので、そこところはぜひこれから静岡方で判断をしていくこともあろうかということ、今日の時点ではお伝えをしておきたいと思っております。

【静岡朝日テレビ】

ありがとうございます。

【司会】

よろしいでしょうか。NHKさんどうぞ。

【NHK】

すいません、2月定例会市議会を振り返ってご質問をいたします。本会議の中で、自民党の尾崎議員のほうから、これアリーナの事業についてだと思いますが、民間の力を使っていこうという話の中で、このペースでいいのかってということなんですと、本当に民間が本気で考えてくれるのかということですよという厳しいご発言がありました。また、志政会の佐藤成子議員からも、清水庁舎はじめPFIの辞退について、なぜそのような状況になったのか、予測できなかったのか、サウンディングが甘かったのではないかなと言わざるを得ない、市民に向けて説明責任果たされていないのではないかと、周りとの関係性は当初から分かっていたことではないでしょうかと、こういったご発言がありました。これまで市長の選挙や、あるいは市政運営を支えてきた会派の議員さんからこういった発言が出たことを、市長どう受け止めてらっしゃいますでしょうか。

【市長】

これは一つのトライアルだと思っています。三步進んで二歩下がって、三步進んで二歩下がってという表現を本会議のときにもさせてもらいましたけども、一步ずつ着実に前進をしていくということです。その3次総のベースにある私の考え方はNPMなんですね。ニュー・パブリック・マネジメント。新しい公共経営という原理、原則です。この新しい公共経営というのは、全ての箱物、全ての公共サービスを、公設公営で、全部税金で市の職員がやるのではなくて、民間資金あるいは民間の人材、民間のノウハウ、それをなるべく生かして、そして官民連携の下の中で公共経営をしていくと、民間の方々にも公共サービスの提供にコミットメントしてもらって、これが新しい公共経営で、高度経済成長がもう期待できない今の財政の中では、税収の伸び悩み扶助費の拡大の中では、こういう公共経営をやっていかざるを得ない、そういう時代の局面になっているわけです。ただ、日本の地方行政にはその経験がありません。先ほどの Park-PFI も枠組みを作ったけど、本当に民間事業者がそこに参画してくれるか。やはり事業性と公共性というものを両立して、なお参画をするという意欲を持ってもらわないと、なかなか難しいわけですね。そういう意味ではトライアルだというふうに思っていますが、その中でどういうふうにその枠組みを作っていくかというのはまさに試行錯誤であります。ぜひ、しかしながら、箱物を全部公共で作って、そしてあとの運営は赤字になったらもう一般会計から繰り出しやしないかというようなやり方では、これはまた市民の批判も浴びてしまいますので、やはりこのやり方、こういうPFIであるとか、さまざまな、指定管理者であるとか、さまざまな民間を公共サービスにも参画してもらおうという方法を模索しながらやっていきたいというふうに思っ

ています。

【NHK】

市長を支えてきた第一会派である自民党、第二会派である志政会から、このような事業の遅滞について疑問や不満の声が相次いだことをどう受け止めてらっしゃいますでしょうか。

【市長】

そこに三步進んで二歩下がってということなので、一緒に一緒にお願いを、一緒にこのことについて経験をしていこうということを今お願いしているところであります。

【NHK】

市長ですね、こういった市政の事業の停滞を伝える報道に対しては、わかり率直に、これまで発言として、それで静岡市が良くなるんだったらいいけれども、これを報道する目的って何なんだと、職員の気持ちをおもんばかってほしい、たくさん書類作って事務的な作業をしている職員のことを理解してほしい、それは惻隱の情なんだという発言をして、どちらかという報道を非難するようなことをおっしゃられてきたんですけれども、議員さんがそういったことを言うことも職員の苦労をおもんばからない非情な発言だということになるのでしょうか。

【市長】

いやいや、報道を非難したというつもりは全くありません。コロナのことについてもそうですし、報道機関の役割はあるし、行政の役割はある。しかし、こういうこともいろいろ議論はあるけれども、一つ最終的にはやはり静岡市をよくしようという立場の議員さんであり、報道機関であり、行政であるので、そここの目標は、目的意識は共有化したいというのが私の気持ちであります。

【NHK】

では、報道に対しては、職員のことを思いやってほしい、惻隱の情を持ってほしいということをおっしゃるのはなぜなのでしょう。

【市長】

記者個人のことでするので、ここで話をするのは適切ではないと思いますので、ここで打ち止めにさせていただきます。

【NHK】

われわれの基本姿勢に関わることでありますので、個人のこととおっしゃいましたけれども、川勝知事の発言だって極めて限られた方に対しておっしゃったことに対して、市長、県知事という職責の下から

節度のある発言を心掛けていただきたいなというふうに思いますという発言されて苦言を呈されていますので、それとの整合性を考えると、どういう場で言ったかにかかわらず、これは責任のあることじゃないかと思いますが。

【市長】

記者と個人的にお話をさせていただいたことですので、ここでの回答は控えます。

【NHK】

ここ以外の場所では回答をいただけるのでしょうか。

【市長】

ですから、記者にいろいろお伝えをしようと思ったけども、なかなか伝わらなかったというのが残念です。

【NHK】

回答はしていただけるんですか。

【市長】

お答えは控えさせていただきます。

【NHK】

また改めて伺います。

【司会】

ありがとうございました。それでは、以上で本日の定例記者会見、終了させていただきます。次回、新年度最初になりますけれども、4月10日、金曜、午前11時からということによりしくお願いいたします。本日はありがとうございました。